

決算特別委員会総務文教分科会

H30. 7. 27 (金)

午後3時10分～

場所：第3委員会室

1 開議

2 事務事業評価対象事業の選定

3 その他

決算事務事業評価に向けて

目的

事業の問題点を明らかにし、行政側に次年度予算において反映させること。

☆事業選定について

(留意点)

抽象的な議論、結論で終わらないよう、具体的な事務事業レベルで選定する。

対象とすべき事業

- ・ 市民の関心が高い、市民生活と密接した事業。
- ・ 今後も継続予定の事業で、目的に対する成果が見えにくいもの。
- ・ 市民ニーズの変化等に対応して、新たな視点を導入して改善すべき事業。
- ・ 民間、国、府が行う他の事務事業と事業目的や成果が重複しているもの。

明確な理由がない限り対象外とすべき事業

- ・ 小規模な事業
- ・ 一般財源の割合が少ない事業（国・府補助事業など）
- ・ 今後終了を予定している事業
- ・ 新規事業で成果がまだ表れていないと判断し得る事業
- ・ 法定受託事業や一般管理経費など

具体的な問題点を提示して、事業選定を行うこと。

【平成28年度審査（平成27年度決算）】

○生涯学習推進経費（財団活動経費（生涯学習かめおか財団補助金）、生涯学習賞経費）		見直しの上継続
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・類似した事業や参加者の状況に応じて、事業の工夫・見直しはされているか。 ・事業実施に関わって、参加負担金徴収の検討はされたか。 ・生涯学習賞の実施により、市民の生涯学習への意識向上や、事業参加につながっているのか。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズをしっかりと把握して、生涯学習事業を実施すべきである。 ・全国各地の生涯学習を通したまちづくりに取り組む市町村振興に寄与するため、本市において生涯学習賞を実施する必要があるのか検討されたい。 ・財政状況が厳しい中で、生涯学習賞の賞金の額、また、賞金を出すこと自体についても、他の表彰との整合性も考慮する中で、検討されたい。 ・生涯学習に取り組んでいる市民団体への補助金を充実することにより、地域の文化活動を支えていくべきである。 ・生涯学習大賞は隔年で表彰されているが、該当者がいない場合は、無理に表彰する必要はない。 	
○地域イントラネット管理経費		現状維持
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等が広く普及している状況の中で、当該事業は「終了」に向かうべきと考えるが、整理できるものは、速やかに整理すべきである。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報セキュリティ対策強化の必要性が高まる中で、ネットワークの適切な運用管理に努められたい。 	
○要保護・準要保護児童生徒援助経費（小学校費・中学校費）		現状維持
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・当該経費について、地方交付税に算定されている項目と、市が支給の対象としている項目の比較はどうか。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学児童生徒学用品費等について入学前に支給されるよう、前払いの検討をされたい。 ・児童生徒の学校生活に支障がないよう、現状維持に努められたい。 ・財政状況が厳しい中で、準要保護児童生徒援助経費について、市として、地方交付税等で十分に、財源措置されるよう、国に要望すべきである。 	
○放課後児童対策経費		拡充
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・条例の改正等により、順次、制度を拡充されているが。支援員・支援補助員の充足状況や場所の確保等、受け入れ態勢はどうか。また、必要経費はきっちり措置されているか。 ・受け入れ時間の延長の状況と、今後の方向性は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の充実に向けて、場所や支援員等の確保など、受け入れ態勢の整備に努められたい。 	

【平成27年度審査（平成26年度決算）】

○大規模スポーツ施設関連事業経費		継続（改革改善）
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全専門家会議等での意見を踏まえ、どのような改善策をとったのか、また、とろうとしているのか。 ・地下水位観測調査の結果によって、スタジアム建設の工法が変更されたのか、また、地下水脈の状況はどうであったのか。 ・各特別会計（企業会計を含む）への繰出金に係る執行内容は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府との経費負担区分を明確にして、府が負担すべき経費については、その負担を強く求められたい。 ・国・府・市の連携により、アユモドキの保全を図りながら、これからの亀岡の街づくりや活性化に向けて、事業執行に努められたい。 	
○生涯学習推進経費		継続（改革改善）
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・コレージュ・ド・カメオカ等の生涯学習事業について、講師料も含めた費用に対する効果は。また、事業の見直し検討は。 ・施設（ガレリアかめおか）の経年劣化の現状と、今後の整備計画は。 ・生涯学習賞の実施により、亀岡の生涯学習にどのような効果があったか。また、今後の方向性は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して生涯学習事業を実施していくため、コスト削減等について、コレージュ・ド・カメオカの見直し、類似した事業の統廃合や、相応の受益者負担を求めるなど、多方面から検討されたい。 ・生涯学習賞については、費用対効果を勘案し、今後の方向性を検討されたい。 	
○学校施設管理経費（小学校費・中学校費）		継続（拡充）
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の大規模改修計画はどのような計画で、いつからいつまでに完了するのか。また、その際に空調整備、トイレ改修は出来るのか。 ・大規模改修とは別に、その都度出てくる修繕には、どのように対応するのか。 ・トイレ改修は大規模改修の時まで待つのか、それほど改修にお金がかかるのか。 ・子どもの教育環境改善が最優先だと考えるが、そのことに対する教育委員会としての考え、決意は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・亀岡の未来を担う子どもたちのために、当該予算の拡充に向けて、強い決意をもって臨まれたい。 ・トイレ改修等について早急に進めるとともに、それ以外の細かい修繕についても学校と連携を図りながら、しっかりと対応されたい。 	
○情報教育推進経費（小学校費・中学校費）		継続（改革改善）
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・整備にあたって、国の指標はあるのか。また、現在の整備状況と、今後の整備目標、方向性は。 ・パソコン、タブレット端末等について、稼働率は、また、コスト削減の取組みは。 ・教師を対象とした情報教育に係る研修の実施状況は。 ・電子黒板整備の現状は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の借上に係る契約方法の工夫等により、さらにコスト削減に努められたい。 ・情報教育に係る教員の指導力向上を図るとともに、情報機器について、授業での効果的な利活用に努められたい。 	

過去の評価結果

【平成29年度審査（平成28年度決算）】

○セーフコミュニティ推進事業経費		見直しの上継続
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施していく上で、経常的に必要な経費は。 ・ISSの他の小学校への波及効果は。 ・SCとISSの認証取得についての基本的な考え方は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフコミュニティに対する市民の認知度が低い状況を踏まえ、親しみやすい名称の工夫も含めて、その改善を図りたい。 ・インターナショナルセーフスクール（ISS）において、曾我部小学校における取組みを、教育委員会との連携も図る中で、市内の全小・中学校に広げていくべきである。 ・曾我部小学校以外の学校においても、ケガ等のデータの収集に努められ、その比較により、事業効果の検証をされたい。 ・認証取得に関わらず、これまでの取組みのノウハウを生かし、亀岡市の独自施策も含めて、安全・安心の取組みのさらなる充実を図りたい。 	
○就学奨励費		見直しの上縮小
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・市の奨学金は年々減少しているが、それを補うだけの国・府の制度充実により、現在の金額で充足しているということなのか。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、国・府において支援制度が充実される内容を確認した上で、亀岡市の対応を検討されるとともに、国・府・市のそれぞれの制度内容について、適宜、生徒や保護者等に周知されたい。 	
○教育研究所事業経費		見直しの上継続
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府にも同様の教職員の研修施設があり、事業内容が重複していないか。 ・事業内容が重複しているということであれば、学校現場への影響及び事業効果は。 ・教育研究所で各事業を実施することが妥当であるのか。また、逆に、各事業を実施するためには、教育研究所がないとダメなのか。 ・嘱託職員5名の具体的な事業内容は。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援センターとしての役割をより明確にされ、特色ある亀岡の教育機関としての充実を図りたい。 ・教職員研修や教育相談等に限定することなく、社会教育分野も含めた様々な活用の方向性を検討されたい。 	
○学校運営経費（小学校費・中学校費）		拡充
論点	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理用消耗及び備品等の経費について、実績に基づき、必要な予算措置がされているのか。 ・公費の負担割合は、他市町と比べてどうか。 ・インターネットによる物品購入など、予算執行上の工夫はされているのか。 	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理用消耗及び備品等の必要経費について、しっかりと予算を確保されたい。 ・財政状況が厳しい中において、できるだけ安価に物品購入を行うなど、予算執行上の工夫をさらに図りたい。 	